

家庭で育み 地域で育む 子どもの健康



『府中市次世代育成支援後期行動計画(平成22年度～平成26年度)』

安心して子どもを生み育てられ、子どもが健やかに育つまちをめざして

わが国では、少子高齢化や核家族化が著しく進行し、家庭や地域社会の変ぼうなど、子育てや子どもを取り巻く環境が大きく変化し、府中市においても例外ではない状況となっています。

府中市では、平成17年3月に、「次世代育成支援行動計画(前期計画)」を策定し、子育て支援、少子化対策に関する各種施策を推進してきましたが、子どもの数は減少し、子どもの自主性や社会性の低下、あるいは地域の連帯意識の希薄化など、子ども自身、社会経済にも将来にわたって大きな影響を及ぼす問題は、いまだ打開されていません。このような問題に、果敢に取り組んでいくため、このたび「次世代育成支援後期行動計画(後期計画)」を策定しました。

■前期計画の取り組み状況

平成17年3月に策定した前期計画では、府中市の子どもがより一層健やかに育ち、市民が安心して子どもを生み育てられるまちづくりを目指して、「家庭で育み 地域で育む 子どもの健康」を10年間を見据えた計画の将来像に設定しました。その後5年間、重点プロジェクトとして「総合的な相談窓口の整備」、「子育て支援ネットワークの整備」を掲げ、子育て支援、児童育成、母子保健などの各分野にわたる施策に取り組んできました。

各事業の目標事業量については、府中市の現状や社会・経済情勢等の変化により、未達成の事業もありますが、概ね達成できています。

■皆さんの「声」を反映した後期計画の策定

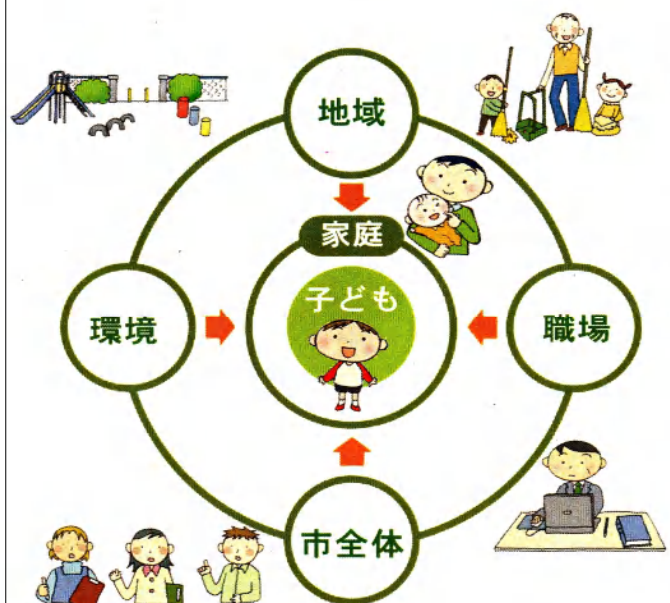
後期計画は、前期計画の実績評価・見直しを行い、府中市のすべての子どもと子育て家庭を対象として、府中市が今後進めていく子育て支援施策の方向性や目標を総合的に定めたものです。

さらに、府中市長期総合計画を具体化する健康地域づくり分野の個別計画であるとともに、府中市の次世代育成支援対策を推進する基本計画として、期間は、平成22年度から平成26年度までの5年間となっています。

この計画の策定に当たり、子育て支援に関する市民の皆さんの生活実態や要望・意見を把握するため、「府中市次世代育成支援後期行動計画策定に係るニーズ調査」を行いました。その結果、いまだに子育てにおける母親の負担感は大きく、仕事と生活の両立や各種サービスの充実、地域の人たちの理解・協力など、さまざまな課題が見られました。

こうした皆さんの「声」を計画に取り入れ、市長の諮問に応じて答申する機関「府中市健康地域づくり審議会」に設置された「次世代育成支援分科会」において審議しました。

みんなで支える府中市の子育てイメージ



■ 施策の柱と重点施策

後期計画では、次の「6つの施策の柱」を掲げ、このうちの2つを重点施策として積極的に推進します。

2つの重点施策

○ 家庭力の促進

子育てに対する不安や負担を感じている母親が依然として多く見られます。その解消のためには、最も身近な家族である父親や、子育て経験者でもある同居・近居の祖父母の理解と協力により、「家庭力」を高めることが最も重要です。

家族みんなで子育てに参加できるきっかけづくりを行うなどの支援を進めます。

○ 地域力の促進

核家族化により、子育ての伝承が難しい社会の中では、公的サービスの充実や家族の支援だけでは限界があります。今こそ地域の役割を再認識し、地域とともに支え合う関係を構築して、「地域力」につなげることが重要であり、地域における子育て支援の充実を目指します。

■ 後期計画が目指す将来像

後期計画では、府中市が直面している課題に対応し、課題の根底にある子育ての負担感・不安感を家庭、地域、職場、市全体が協働で解消することにより、子どもを安心して生み育てられ、子育ての喜びを感じることができるまちづくりを目指して策定を行いました。

加えて、府中市らしさを大切にしながら、地域で協力して子育てをすることで郷土愛をはぐくみ、子どもが健やかに育ち、府中市で子育てをしてよかったと実感できるよう、計画を総合的に推進します。

後期計画の将来像は、前期計画を踏襲して、「家庭で育み 地域で育む 子どもの健康」に設定しています。家庭・地域の「きずな」の再生を図りながら、住民協働のまちづくりを目指します。

